

令和3年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493700239	事業の開始年月日	平成24年8月1日	
		指定年月日	平成30年8月1日	
法人名	株式会社ハートフルケア			
事業所名	グループホーム プラチナホーム市ヶ尾			
所在地	(〒225-0024) 神奈川県横浜市青葉区市ヶ尾町1848-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和4年2月3日	評価結果 市町村受理日	令和4年7月25日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自治会による獅子舞や盆踊りの参加などで地域の方と交流する機会を設けている。また、近隣の幼稚園から毎年園児が歌の披露に施設に来られたり、小学校の餅つき大会にも参加している。秋には隣接するグループホームのプラチナホーム市ヶ尾Ⅱと合同でお祭りを開催しており、ご家族様を招待してゲームや屋台などを楽しまれている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町2-3 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和4年2月22日	評価機関 評価決定日	令和4年5月21日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずに調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 事業所は、東急田園都市線市が尾駅から徒歩15分程の住宅地に立地している木造2階建ての建物である。同一法人のグループホーム(2ユニット)と隣接している。例年は家族や町内会の方などを招待して「市ヶ尾Ⅰ・Ⅱ合同祭り」を開催し交流していたが、新型コロナ禍で今年度も中止している。 【新型コロナ禍での中断を補う支援】 新型コロナ感染防止のため、家族や友人との面会や外出を中断している。ADLの低下や認知症の進行を穏やかに保てるよう、体操を励行したり、歩いてもらう為に距離が稼げる奥のトイレに誘う工夫をしている。合同祭りが行えない代わりに予算を増やし、ミニ運動会やビンゴ大会等のレクリエーションを充実させている。また、寿司やピザの出前を注文したり「お料理会」や「おやつレク」で利用者の好みの物を提供して、食事も楽しんでいる。 【職員を育てる取り組み】 入職時は、早番の職員が中心となり1ヵ月を目安にOJTを実施している。「研修年間計画」を作成し、法人内研修は管理者が職員に受講を促している。新型コロナ禍で外部研修の参加は控えている。「口腔ケア」、「認知症」などの内部研修を行い、職員共通のスキルの確保に努めている。フェイスシールドの着用や消毒などの感染防止に注力し、管理者もシフトの一端を担い、利用者が安全に1日を過ごせるよう職員と共にサービスを提供している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム プラチナホーム市ヶ尾
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	グループホーム プラチナホーム市ヶ尾
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は見える場所に掲示し、日頃使用するファイルに閉じ、見えるようにしている。理念に基づき統一したケア、お客様のADL低下防止に努めている。	法人の理念『私たちは、関わるすべての人たちが「安心して心豊に暮らすことのできる社会」を創ることに貢献します』を事業所の理念として掲げ、事務所へ掲示して共有し、出勤した際に個々に理念を読み確認している。管理者は、利用者が安全に1日を過ごせるように、サービスを提供するよう職員に伝え、理念の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症が終息しないため、地域のイベントも中止となり、交流は出来ていないが、近隣にお住まいの方が、時々花を持ってきて下さることはある。	市ヶ尾町内会に加入し、年2回程役員を訪問して挨拶をしている。新型コロナ禍で町内会の主な活動が中断している中、唯一、正月に獅子舞の来訪があり、庭先で舞を披露してくれた。幼稚園児や小学生、手工芸のボランティアなどの来訪を中止している。近隣の方が時々花を届けてくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流は今まではできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は書面での報告となっているため、直接ご意見を伺うことが出来ない状況。	新型コロナ禍での運営推進会議は、書面開催で奇数月に実施している。メンバーは、町内会の副会長、民生委員、事業所の職員である。運営推進会議議事録と活動状況報告書をメンバーや行政などに郵送している。町内会の副会長からは、ねぎらいの言葉を掛けてもらい、民生委員からは地域の介護施設等の感染情報が寄せられている。	今後の交流を進めるためにも家族や地域包括支援センターの職員に運営推進会議議事録などを送付し、事業所の状況を伝え、運営推進会議に参加していただけるよう引き続き働かせることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて青葉区役所生活支援課・高齢支援課と連絡を取っている。	行政の職員とは、運営推進会議の資料送付や入居相談の問い合わせなどがあり、必要に応じた電話連絡や相談などがしやすい関係を保っている。生活保護費を受給している方が4名入所しており、担当職員が事業所に来訪した際に活動状況などを伝えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、全職員、身体拘束を行わない事を理解している。但し、事業所の前の道路は車の交通量が多く危険な為、入居者様の状況に応じて扉は施錠している。	「身体拘束禁止のための指針」を整え2021年4月開催の研修を通して学び、チェック表で身体的拘束をしないケアの確認をしている。委員会は、今年度内に開催する意向である。帰宅願望の訴えがある方には、絵画の話をするなど落ち着くこと等を職員間で共有し対応している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行っている。	運営規定に「虐待防止に関する事項」を明記している。高齢者虐待防止については、2021年12月開催の研修で学び、チェック表で不適切なケアなどの確認をしている。身体的虐待のみならず言葉や態度による心理的虐待なども該当することを確認し、虐待が見過ごされることがないように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての資料を、職員がいつでも閲覧できるように設置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い、ご理解いただいたうえで契約書を交わしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。ご意見があった場合は職員や上司と相談・話し合いを行い対応している。	日々の様子や行事などを撮影した写真を掲載した「プラチナホーム便り」を季刊発行し、家族等に郵送して利用者の様子を伝えている。家族の要望・意見は、介護計画を作成する際の意向確認時や、メール、問い合わせがあった際の会話から読み取っている。「職員の顔と名前が一致しないので知りたい」という家族の要望に応じ、出勤している職員の名前を掲示している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談やミーティングといった形式ではなく、時間がある時などに職員と話をする機会を設けている。	管理者は、申し送りや日々の関わりの中で職員の意見や提案を聞いている。また、年1回実施する自己評価に伴う面談でも意見や提案を聞いている。利用者のケアに関する提案は職員の意見を検討し反映している。就業についてのストレスケアは、管理者が常々小まめに職員に声をかけ、帰りがけ等にも話を聞いている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の自己評価の際に面談を行い、評価をしている。その他、普段の雑談のなかで悩みや困っていること、希望等の相談を受けることもあり、アドバイスをを行っている。	管理者は、日常業務の中で職員個々の努力や実績等を把握している。等級別の自己評価を行う人事考課の仕組みがある。認知症介護実践者研修など、資格取得のための費用や交通費に補助が得られ、取得後には資格手当が支給される。産休・育休・時短勤務・再雇用の制度がある。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修のほか、職員同士でアドバイスを رفتりしている。	入職時は、早番の職員が中心となり1ヵ月を目安にOJTを実施している。「研修年間計画」を作成し、法人内研修は管理者が職員に受講を促している。新型コロナ禍で外部研修の参加は控えている。「口腔ケア」、「認知症」などの内部研修を行い、職員共通のスキルの確保に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナウイルス感染拡大のため、外部への研修には参加していない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や面接時に、ご本人のお困りごとや思っていることを出来る限り伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居のご相談を受けた際は、どのような事に困られているかや要望等、できるだけ詳しくお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談後からご入居までの間に、どのような支援をしていくかを職員と話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に掃除や食事の準備、レクリエーションなどを行い、信頼関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かトラブルがあった際は、職員の意見だけでなく、可能であればご家族にもご意見を伺い、対応の参考にさせていただいている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居後、安心していただくために、可能な限り馴染みの物を持参して頂いている。コロナ禍で馴染みの場所に出かける事はできないが、写真などを提供して下さるご家族もいらっしゃる。	新型コロナ禍においては、状況を判断しながら、馴染みの関係を維持している。電話の取り次ぎ支援や家族、友人との手紙のやり取りなどを通じて、馴染みの人との関係を保っている。入居前からの生活習慣の継続で、新聞を読んだり広告を見る方、趣味の絵を描く方やお化粧を楽しむ方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や相性を考慮してリビングの席を決め、会話を楽しめるようにしている。また、レクリエーションや役割活動などで協力しあえる環境作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族からお便りが届いたり、お電話を頂くこともある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人からの意向やご入居前からの習慣など、出来る限りご本人の希望を取り入れた支援をしている。	日々の関わりを持つ中で利用者の変化に気付けるようにしている。利用者の思いや希望はアセスメントで把握している。意思疎通が困難な方や意向を表出しない方については、生活歴や家族の話などから職員が汲み取り、その情報を職員間で共有している。洋服選びを二者択一にしたり、嫌な事は表情によく表れるので見逃さぬようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前にこれまでの生活歴や習慣などの情報をご家族からいただき、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々観察し、記録に残している。状況に変化が生じた際は、その都度職員同士で話し合いをして対応方法を検討している。訪問看護や往診医とも連携をとり、心身の状態の把握に努めている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様からの意見や要望を考慮し、職員が思うケアすべき課題について話し合い介護計画を作成している。	長期目標1年・短期目標6カ月を基本に設定した介護計画を作成し、短期目標更新時に見直しをしている。カンファレンスで利用者の状況について意見交換し、状況に変化があればその都度計画を見直している。利用者及び家族の意向や医師、看護師などの意見も反映し介護計画を作成している。個別の介護記録を記載する際は、介護計画を1冊に纏めたファイルを確認しながら、課題の番号を併記して介護計画に反映できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録や申し送りなどを基にカンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて医師、看護師、薬剤師、福祉用具店などの協力を得ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	状況に応じて医師、看護師、薬剤師、福祉用具店などの協力を得ている。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は2カ所あり、どちらか選んでいただいているが、入居前から通っていた医療機関を継続することも可能。	利用者は、協力医療機関2カ所（内科）の訪問診療を月2回受けている。利用開始前からのかかりつけ医を受診している方もいる。専門医受診への同行は家族が行い、診察の結果は、利用者個別の「申し送り事項」に記載し、職員間で内容を共有している。訪問看護師と歯科医が毎週来訪しケアなどを行っていたが、歯科医の来訪は、2月から中止し、必要時に受診する事になっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とも情報を共有し、往診医と連携を取っている。ちょっとした相談なども行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先へは介護サマリーをお渡しし、ご本人が安心して治療できるように支援している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関の医師からご家族へムンテラを行い、ご家族、医師、ホーム長とで支援の方針を決めている。	契約時に看取りを行う事業所であることを利用者や家族等に、看取りの条件などと共に説明している。重度化した時は、協力医療機関の医師と連携して、家族等の希望を確認しながら話し合っている。その後「看取りに関する指針」、「看取り介護についてのご説明」を示し、「看取り介護についての同意書」、「看取り介護における確認事項」の署名を得て、利用者の状況に応じた対応をしている。ここ2年間は看取りをしていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、それに沿って対応している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っている。	2021年6月に消防署立ち合いの火災を想定した訓練を予定していたが、新型コロナウイルス感染防止のため、訓練が中止となった。その代わりに机上で火災時の対応、消火器・火災通報装置の使用方法の確認を行っている。2021年1月は、青葉消防署から提案のあったFIG（火災図上）訓練を実施している。近隣に川があり災害マップで水害に注意する場所であることを把握し、水害時は垂直避難をする意向である。水、五目御飯、お粥セットなどの非常食3日分とランタン、卓上カセットコンロなどの備品を「災害時備蓄品」で管理している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は個人を尊重した言葉がけを行い、個人記録には氏名の明記は行わないよう、職員に周知徹底している。	「接遇」の研修を実施し尊厳の保持などについて学んでいる。雇用形態に関わらず、参加できなかった職員には資料を配布し内容を共有している。呼称は苗字に「さん」付けで「ちゃん」付けをしないことを基本としている。リビングで利用者に関する話をする時は小声で行っている。介護記録は名前をイニシャルに変えて記載し、パソコンはパスワードを設定し管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間をかけての傾聴や、毎日の生活から本人の意思や希望を汲み取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが本人のペースに合わせた生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度美容師が訪問し、ご本人の希望に合わせてヘアカットをしている。また、毎日同じような服装ばかりにならないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は関連施設から運ばれ、配膳や片付けは皆で行っている。メニューは季節やイベントに合わせて、定期的に行事食が提供されている。	同一法人他施設の専門職員が献立し調理した副菜を温めて提供している。ご飯と汁物は職員が調理している。利用者がお茶の用意やお盆拭き、下膳などを行い食事に関わっている。偏食の強い方は、処方されるエンシュア・リキッド（総合栄養剤）で対応している。誕生日にはケーキを提供し、季節や催しに合わせて行事食も提供している。寿司やピザの出前を注文したり「お料理会」、「おやつレク」で、ホットケーキやシチューなどを作り食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事・水分量を提供しており、嚥下機能が低下している方には刻みやムース食などの対応も行っている。食事が進まない方には、食べたくなるような盛り付けやお好きな物を提供したり工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、必要に応じてスタッフが支援している。口腔ケアの研修も行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、出来る限り失敗なくトイレで排泄できる支援をしている。	職員は、利用者ごとの排泄のパターンを把握して、定時での誘導や利用者の様子を見ながら声かけを行い、トイレでの排泄を促している。排泄のパターンを把握し誘導した事で布パンツの使用に移行するなどの劇的な変化は無いが、現状を維持できるように努めている。眠りを妨げないよう夜間はおむつに変えたり、パッドをつける方がいる。職員は、一人ひとりの状態に応じた排泄の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼るだけでなく、水分摂取や運動などで自力摂取を促すようにしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	拒否がある時は、時間や日にちをずらして対応している。	利用者は、概ね週2回の頻度で入浴している。現在、毎日の入浴を希望する方はいない。職員は、決められた時間の中で、タイミングを見計らいながら利用者に入浴を促している。入浴を好まない方は入浴剤を使用したり、「ニューヨークに行きませんか」等と声をかけ、入浴を促している。利用者は、菖蒲湯・柚子湯などで季節を楽しみながら入浴している。冬季は湯を沸かしながら、浴室暖房機の暖気を脱衣所に移して温度差が無いよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間だけでなく、必要に応じて日中に体を休める時間を設けているが、基本的には夜しっかり眠れるように、出来る限り日中は活動的に過ごすことが出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は職員がいつでも確認できるようにしている。薬の変更があった場合は、しっかりと様子観察し、次の往診時にどのような効果があったか等を報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた役割活動や趣味、レクリエーションの支援を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、外出支援はおこなっていない。	感染防止策を施して、週1回程の頻度で、近隣の川沿いを散歩している。外出が難しい方は、テラスでお茶を楽しんだり外気浴をしている。年間行事を作成していたが新型コロナ感染対策で外出できたのは、ドライブを兼ねて車中から桜を眺めるお花見のみであった。体操やスイカ割りなど室内で体を動かせる催しを充実させて、気分転換ができるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は基本的に管理者が行っているが、希望があればご本人の状態によってはお預かり金の一部をご本人に管理して頂くこともしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人やご家族とお電話をしたり、年賀状を出される方もいらっしゃる。コロナ禍のため、電話でご家族とコミュニケーションを取る機会が以前より増えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	築年数の長い施設のため、劣化している箇所が多かったが、トイレや廊下、ドアなど修繕を進めている。リビングは、季節感のあるものを飾るようにしている。	窓の開閉に留意して換気を行い、空調設備で温度管理をする等、利用者にとって不快や刺激がないよう努めている。トイレや居室の場所が分からなくなった方には、貼り紙をする等してその方が分かるようにしている。床のワックスがけや窓ガラスの掃除を業者に依頼して環境を整えている。クリスマスなど季節の行事に合わせて、利用者等が工作した作品を壁に飾っている。正月には、羽子板や干支の文字を書初めして飾っている。雛人形を飾るなど季節を感じられるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファがあり、ゆっくり過ごすことができる。また、テラスにもテーブル、椅子があり、そこでお茶を飲んで過ごすこともできる。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具を持ち込まれる方や、好きな物を飾って楽しんでおられる方もいらっしゃる。	事業所が備えた空調設備、ベッド、整理ダンス、照明器具、カーテンがある。利用者は、テレビ、冷蔵庫、カレンダー、本人が書いた絵や趣味の飛行機を飾るなど、思いおもいの品を持ち込んでいる。テーブルとイス、ソファを並べ、入所以前に住んでいた環境に近い配置をして、BGMを流して過ごす方がいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の基本動作を把握し、自立した生活ができるように支援している。ご自分の部屋やトイレの場所がわからなくなってしまう方には、貼り紙をするなどしている。		

